

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272700899		
法人名	社会福祉法人恵心会		
事業所名	グループホーム鶴亀		
所在地 (電話番号)	〒039-0122 青森県三戸郡三戸町斗内字和田60-1 (電話) 0179-23-4112		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 9月 4日	評価確定日	平成 19年 11月 7日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	3,500 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(8月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85 歳	最低	68 歳
		最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三戸中央病院・石亀歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同敷地内に特別養護老人ホーム・デイサービス・在宅支援センターがあり、研修・避難訓練・ローテーション等支援・連携が図られている。ホーム内はゆったりし、職員の声も穏やかで安心した生活の場となっている。グループホームの玄関が特別養護老人ホームの裏になっているため外部からは、わかりにくい面がある。また玄関向かいに施設の大型機械(ボイラーあるいは受水槽か)が設置されているため家庭的環境を考慮すると、何らかの対応(木を植える、塀で囲む等)があれば尚よるしいかと思えます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題は外部評価後、直ちに取り組み食事場面・居室の窓のカーテン・カレンダーの配色・研修の充実が図られていた。個別の記録の部分は十分意識した記録になっているが、法人とのパソコンシステムの関係で「その人らしさ」の個別記録が見えない部分があります。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受けることによって視点を変え、より充実したサービスの提供に繋げる動機付けととらえ積極的に行われています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回管理者・介護員・利用者参加のもと行われている。市町村との連携も多種に亘り図られている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	家族への通信・来所時面談等で気軽に要望・意見を聞くよう努めている。月1回オンブズマンの訪問があり議題になったことを記録している。また苦情が発生した場合ケースによっては役場へ報告・対応の相談をしている。記録は事務所に保管され、いつでも見ることができる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	社会福祉協議会・学校(小中高)・地域の職場との交流、夏祭り・敬老会参加等積極的に連携が図られている。グループホーム便り、パンフレット等を役場、施設のカウンターに置くことで来訪者が手にしやすい状況になっている。グループホームの人材を活かした地域社会(婦人会・老人クラブ・農協グループ等)への介護教室、認知症の予防等の研修で交流を深められることを検討してみてもは如何でしょうか。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと、グループホーム独自の理念を掲げわかりやすく表現されている。「その人らしさの生活支援」をポスター表示し玄関、ホールの目に付くところに掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの理念にもとづいた月別の目標を更に掲げ、チーム全体でとりにくんでいる。スタッフは理念の共有の必要性を受け止め実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	季節の行事(お祭り、敬老会等)への参加や地域の小中高生によるボランティアでの受け容れをとおして交流を図っている。地域での住民健診を1年に1回受診し、健康管理だけでなく地域とのつながりを深めるためにも活用している。		重点項目 に記入しましたがグループホームの人材を活用した地域との交流を検討してはいかがでしょうか。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善課題は直ちに取り組み、管理者は評価を受審する必要性と効果を十分受け止めている。スタッフは協力して布製手作りカレンダーの色彩の変更、居室のカーテンの設置等環境の心地よさに勤めている。		個別の記録の改善は「その人の暮らしが見える記録」に取り組まれたらいかがでしょうか。
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。(参加メンバーは管理者・スタッフ1名・利用者代表1名)行事の企画、実施後の反省・希望等を話し合っている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場とはグループホーム入居希望者の待機状況の確認、住民健診のお知らせ等で連携を図っている。事故発生時は報告し向上の取り組みは記録に残している。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人のマニュアル、外部研修の復命書等で理解を深めるようにしている。入所者の1名は入所以前の主治医も参加し必要時はカンファレンスを開いている。		入居者、その家族に対してわかりやすい言葉をつかったパンフレットの作成、職員全員の理解を深める積極的な対策を話し合いをしてはいかがでしょうか。
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人のマニュアル・外部研修の復命書等で理解を深めるようにしている。職員の対応は穏やかで、声高に話す人もなく入居者は落ち着いた時間を過ごしているのが表情から読み取れる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、状況変化時には説明し理解の上、重要事項説明書・その他同意書にサインを得ている。また家族からの不安・疑問にはその都度応えている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「グループホーム便り」を入居者の家族に送ったり、変化時は適宜家族に連絡を入れている。また来所時は積極的に提供している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望、投書内容等は法人のマニュアルにそって検討、対応している。発信先がわかるケースは直接答えている。内容によっては役場へ報告しアドバイスを得ている。月1回はオンブズマンの来所があり直接相談が受けられるシステムが機能している。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ローテーションによる入所者の精神変化に対してリスクを最小限に抑えるよう観察をこまやかにし、情報を共有し対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修プログラムに参加、グループホーム独自の学習プログラム、新人職員実務記録を実施している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の運営する他地域のグループホームとの交流をはかり、サービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所当初は環境の変化による行動、精神面の把握をし、不安の解消につとめている。職員間のケアの統一をはかり混乱を避けるようにしている。入所前に家族、関係機関からの情報をアセスメントし利用者の対応に心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度(野菜の切り方、味付け等)や花の手入れ、菜畑・草取りなど日常生活の様々な場面での学びがあり良好な関係が築かれている。一緒に生活している、お互いに支えられていると職員は感じている。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の生活の希望、気持ちを汲み取り具体的な支援計画を作成し評価している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン作成者、職員、本人、家族が話し合い、作成内容は同意を得た上で提供されている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	評価は3ヶ月ごとに支援の内容、利用者の生活の質を見直しプランを作成している。変化時はその都度見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の同行、買い物、床屋、また法人施設内のお店利用等個人個人の要望に応えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の意向に沿い、また受診必要と判断したときは指定病院に受診介助を支援している。受診後は通院録に内容記入している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>レベル低下時は家族、主治医と相談しながら対応している。緊急時は同法人の看護師の判断、指示のもと対応している。</p>		<p>入所時に重度化、終末期にむけての家族の意向確認と退所支援の内容を示したマニュアル等を準備することで、家族の精神的ケアにチーム全員が対応できるのではないかと思います。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの性格、人格に配慮した声かけ、支援をしている。業務優先の雰囲気は全くうかがえず、穏やかな生活の場が提供されている。記録等に関しては個人情報を守られている。広報誌等に掲載の写真に関しても事前に家族から了解を得ている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人の生活パターンに沿った支援をしている。計算ドリル、趣味のはり絵を楽しむ方、外出したい方の支援等出来るだけそのときに解決できるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個人の能力に合わせ、毎日料理づくりと一緒にしている。きり方、味付けは教えられることも多い。一人ひとりの食べる能力、嗜好を考慮し同じ食材でも形・味に変化を持たせている。職員は出来るだけ入所者と一緒に楽しみながら昼食を食べるようにしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>少なくとも週2回は入浴が楽しめるようになっている。清潔が望まれるとき(受診前、失禁時、発汗時、外泊前日、畑いじり時)や入浴希望がある際は随時対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食器洗い、食器拭き、片付け、洗濯干し、たたみ等の役割を個人の能力に応じて自発的に行っている。職員は感謝の言葉をかけ一緒に行っている。朝起床後、自室のお掃除を毎日行う習慣の方もいる。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>個人の希望のみならず職員からもお誘いの声をかけ支援している。畑いじり、買い物、受診後の買い物等随時対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>同法人のマニュアルに従い職員は学習し取り組んでいる。拘束廃止の必要性は十分理解している。危険上の理由で拘束されている方もいない。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>居室、出入り口等かぎはかかっていない。夜間のみ防犯上施錠している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>同法人のマニュアルに従い体制はしっかり取られている。地域の協力隊、消防団が組織されている。非常時の連絡体制、消防への電話マニュアル等を掲示し万が一に備えている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養量は法人の栄養士の献立のもとグループホームの職員が入所者と一緒に作っている。個々の体重、嚥下能力等を考慮し一人ひとりに合った食事が提供されている。食事後の水分、お茶も食べた頃を見計らって自然に提供されている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルに則り実施されている。職員は研修をとうして理解を深めている。インフルエンザの予防接種は全員が行っている(職員も含め)。食中毒の時期にはポスターを玄関先に貼り啓蒙活動を行っている。</p>		<p>洗濯機内、洗い場水槽内の汚れが気になります。水質の関係も考慮に入れたうえでの清潔に努めてください。お風呂場のドア(下段)のカビ様の汚れも清潔感から考慮した方が良いと思います。</p>

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は入所者と一緒に作った壁飾り、布製カレンダー、お花の切り絵などがあり、楽しめる空間になっている。天井が高く洋風と和風がマッチし穏やかな生活が営まれている。季節ごとに絵柄を変えたり発行された広報誌を貼り来所者も楽しめるよう配慮されている。自然の風や風景が感じられる空間で穏やかに過ごされている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた飾り、写真、小物入れ、家具等が持ち込まれ在宅を思わせる雰囲気が感じられる。洗濯した小物を直接居室に架け、自分で管理できるよう支援している。各部屋からは景色や車の通りが見渡せ、退屈な時間の緩和になっている。前回指摘のあった「外部から中が見えない工夫」は薄手のカーテンで対応されている。		

 は、重点項目。